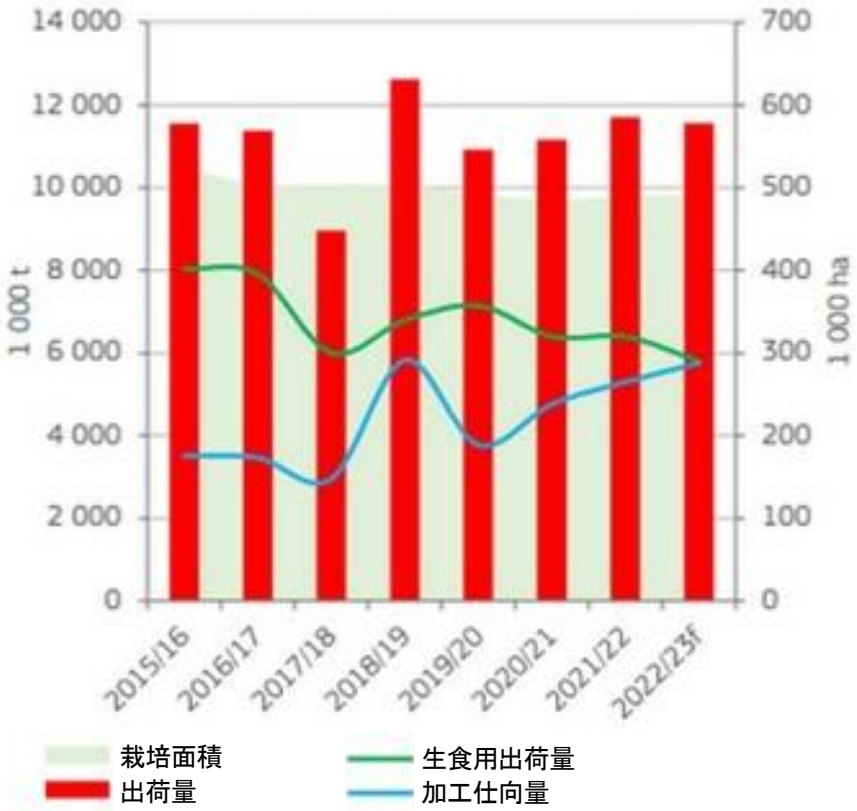
EU　農産物市場短期見通し-2023年春（リンゴ、オレンジ）

FreshPlaza　2023年4月7日

リンゴは高い貯蔵コストのため加工仕向量が増加

2022/23年度のEUのリンゴ出荷量は、約1,220万トンと予想される（昨販売年度と同様の量であり、過去5年間の平均を2.6％上回る）。ポーランドの史上最高の収穫量（420万トン、前年比+5％）とイタリアの豊作（+7％）が、フランスの減収（-10％）を補った。ハンガリー、ルーマニア、スペイン、ポルトガルをはじめとして、他のEU諸国でも出荷量の減少が見られた。

EUのリンゴ栽培面積と出荷量



出荷量のほぼ半分は、貯蔵されずに加工用に仕向けられると予想される。これは、生鮮消費に適さない品質の低いリンゴが多いこと、それらの価格が低く、また輸出機会が少ないこと、貯蔵に要するエネルギーコストが高いことの結果である。さらに、一部のEU加盟国では季節労働者の確保に関する問題のため収穫が遅れ、果実の品質に影響を与えた。合計で約580万トン（前年比-9％）のリンゴが生鮮消費用に、570万トン（+8％）が加工用に販売されると予想される。

EUのオレンジ出荷量は10年ぶりの少なさ

EUの主要生産国（特にスペインとイタリア）の雨が少なく暑い気象条件の結果として、2022/23年度のEUのオレンジ出荷量は13％減の約570万トンと予想される。同程度に少ない出荷量が最後に記録されたのは2012/13年度である。スペイン（EUの生産量の50％以上を占める）の場合、16％の減少は収量の低下に起因しており、栽培面積は概ね横ばいである。イタリアでは、面積の減少と収量の低下が相まって、出荷量は前年より20％少ない。EU全体では、面積の減少（-5％）は収量の減少（-8％）よりもわずかに小さかった。

EUのオレンジ栽培面積と出荷量

オレンジの収量が低いことに加えて、果実の品質も低いと報告されている。通常、低品質のオレンジは加工用に仕向けられるが、供給量が少ないため、これらの一部も生鮮消費用となる可能性がある。全体として、出荷量の減少は、生鮮消費量(-9%)よりも加工仕向量(-32%)に大きな影響を与えると予想される。

加工仕向量は長期的に見ても少ないと言えるかもしれないが、一方、生鮮消費用の出荷量は依然として低い水準であるものの、過去数年間に見られたのと同程度の水準である。出荷量が少ない結果、出荷価格は上昇した(ポルトガルを除く)が、エネルギー、肥料などをはじめとする投入資材費の上昇を補うためには十分でない可能性がある。

出典: agriculture.ec.europa.eu